

目 次

I	研究の概要	1
1	研究主題設定の理由	
2	研究の方針	
3	研究主題の捉え方	
4	目指す生徒像	
5	研究の仮説	
6	研究内容	
7	研究組織	
8	研究の全体構想図	
9	研究の経緯	
II	研究の実際	7
1	授業改善への取組	
2	研究推進の取組	
III	研究の成果と今後の課題	14
1	研究の成果	
2	今後の課題	

自ら課題に取り組み、考える力・表現する力を育てる学習指導の工夫 ～主体的に社会とかかわり、思考を深める学習をとおして～

提案者 益子町立益子西小学校教諭 宮下 幸恵

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

(1) 今日的課題から

グローバル化や情報化が進み変化の激しい現代社会において、何が重要なかを主体的に判断し、自ら問いを立て、他者と協働しながら解決を目指していくことは必須である。また、現代は価値観が多様化し、様々な考え方を持った集団の中で、互いの異なる価値観を尊重しながらよりよい関係を築いていくことが必要とされる。そして、社会とどのようにかかわっていくかを育むことが求められる。さらに、多くの情報から適切に整理してそれらを活用できる能力が求められ、あらゆる課題解決の手段として情報処理能力が求められている。

社会科で大切なのは知識だけでなく、それらを生活や社会で活用できることである。問題解決につなげる基本的な知識を身に付けて、課題を分析・把握し、解決に向けて構想する。これらの力を付けさせるためには、児童自らが問題意識をもって自ら課題に取り組むことが必要となる。

学習指導要領の社会科の目標には、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」とある。3年生から始まる社会科ではあるが、低学年の生活科から社会科の学習へのつながりを意識して指導することで、社会科の学習がより深まり、本主題に迫ることができるを考える。

(2) 学校教育目標との関連から

本校の教育目標は「よく考え本気で学ぶ子ども」、「元気でたくましい子ども」、「思いやりがあり助け合う子ども」である。児童が自ら進んで学習問題を考え、課題解決に向けて取り組むことは本主題の観点から教育目標の「よく考え本気で学ぶ子ども」に迫るものである。

(3) 本校の実態から

本校の児童は、明るく言われたことに素直に取り組むことができるが、自ら行動することや表現することが苦手である。学習面においても、与えられた課題にきちんと取り組むが、主体的に課題を見つけることや、お互いの意見を出し合ったり話し合ったりする活動が苦手である。学力調査の結果からは、自分の言葉で説明したりまとめたりする書く力や、文章を読み取る力が身に付いていない傾向が見られた。

社会科の学習を通して資料を読み取り、活用する力を高めていきたいと考える。

また、社会的事象に対する関心や社会的な見方・考え方がまだ十分とはいえない。中には、自分とのかかわりを深く考えられない、関心の低い児童も見られる。そのため、一人ひとりが社会の一員であるという意識をもち、主体的に社会とかかわり自ら進んで世の中に参画していくような働きかけが必要であると考える。

本研究を昨年度より進めてきたので、自分の考えを書ける児童が増えてきており、昨年度の学校課題に関する意識調査（6月、3月）では、それぞれの項目において向上し、意識が高まっているのが分かる。学習は楽しく、話し合い活動や調べる学習が好きな児童が多いが、授業中、自分の考えを進んで発表していると答えた児童は6～7割であった。このような実態を受け、身に付けた知識や技能を活用する力が不足しているため、主体的に学び生活に生かす力を高めていく必要がある。

以上の理由から本研究主題を設定した。

2 研究の方針

- (1) 本主題について全職員の共通理解のもと、全校体制で研究を進める。
- (2) 研究課題解明のために目指す児童像を明らかにし、計画的に思考力・判断力・表現力を高める授業を実践する。
- (3) 「主体的・対話的で深い学び」をとおして学び合う力を育成する。
- (4) 研究授業を行い、課題や成果を確認しながら研究を推進する。
- (5) 関係諸機関からの指導助言を受けながら研究を推進する。
- (6) 公開授業を行い、その成果を広く発信するように努める。

3 研究主題の捉え方

(1) 「自ら課題に取り組む」とは

主体的に解決に取り組む姿である。学習を進めていく上で重要なのは、子ども自身が「学びたい」と思うことであるため、どのように子どもと社会的事象との出会いの場を設定するかが大切であり、「調べてみたい」「解決してみたい」「やってみたい」と思えるような課題を設定し単元を構成することが求められる。子どもと一緒に学習問題・学習計画を立てることで、自分の課題という自覚ができる。

さらに、自分が何について学習するのか、どんな方法で取り組んでいくのか、解決の見通しをもち、自力解決したことを周囲に表現したり発信したりしながら確認・修正をしていくことが必要である。そして、調べながら思考力、判断力、表現力を養い、問題解決能力を高めていくことで、自ら課題に取り組む態度を育てていく。

実生活においても、様々な社会的事象との関連を考え、自ら課題を見つけて問題を解決していくようになっていくのではないかと考える。

(2) 「考える力・表現する力を育てる」とは

社会科では、社会的事象を比較し、関連付けて考えることが大切である。自分で考えたことを説明し、互いに議論し合うことで、考える力・表現する力を育んでいく。

何についてどのように考えるかを指導するにあたって、自分の疑問や予想、事実関係、考えの根拠や理由、他者との意見を関連付けるなど様々な点を意識しながら解決していくようとする。これらの学習経験を積み重ねながら、問題解決的な学習の充実を目指していく。

思考力とは、「一人ひとりが自ら学び、判断し、自分の考えをもって他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解や新しい知識を創り出し、さらに次の問い合わせを見つける力」と捉えた。まず、学習課題に出会い、疑問をもって課題に向き合い、これまでの生活経験や学習で得た知識を関連付けたり連想したり、比較したりしてそれらをつなげていく。そして、異なる視点から対象を見直したり他者と議論したりして、見方・考え方を広げたり深めたりして、共通点や相違点を見出し一般化して、今後のこと推察して自らの価値を判断していく。

すなわち、学習した知識や考え方を活用しながら問題を発見し、解決していく中で、様々な事実に気付き、それらのつながりを総合的に捉えさせていく学習を進めていくことが大切であると考える。

(3) 「主体的に社会とかかわる」とは

「もの・ひと」などの社会的事象と自分とのかかわりを考え、その社会的事象の意味を考えながら学習を進めていくことが必要である。学習問題をつくる過程で子どもの思考を揺さぶり、知りたいことや学びたいことを引き出して、主体的に追究していくことである。そして、単元の学習が終わった後も、自ら社会に働きかけてよりよい社会を築いていこうとする姿勢を育んでいく。社会の一員として、様々な人々と進んで連携・協力しようとするを考えながら解決に向かっていくようとする。

4 目指す児童像

社会の様子に関心をもち、進んで自らの課題を追求していく子ども

5 研究の仮説

生活科や社会科の時間を中心に、様々な「もの・ひと」と出会い、子どもと一緒に学習課題を作りて思考を深められる授業づくりを工夫していくれば、思考力・判断力・表現力を高める手立てとなり、目指す児童像に迫る子どもを育てることができるであろう。

6 研究内容

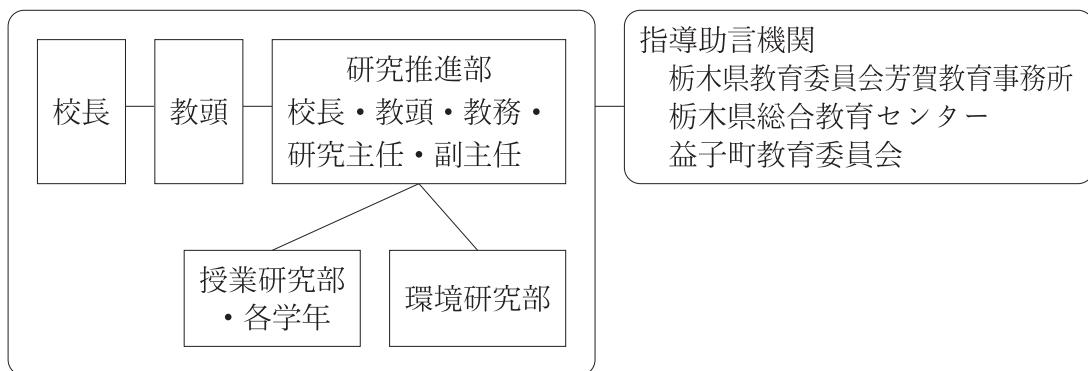
(1) 授業改善への取組

- ア 思考力・判断力・表現力を高めるための指導の工夫
 - ・ゴールを意識した学習課題設定の工夫
 - ・概念を揺さぶる発問の工夫
 - ・問い合わせが生まれる教材教具の開発
 - ・比較、関連、総合、再構成する場の意図的な設定
 - ・思考を可視化させる板書とノート指導の工夫
 - ・主体的に社会とかかわる場の意図的な設定
- イ 単元を通した学習過程の工夫

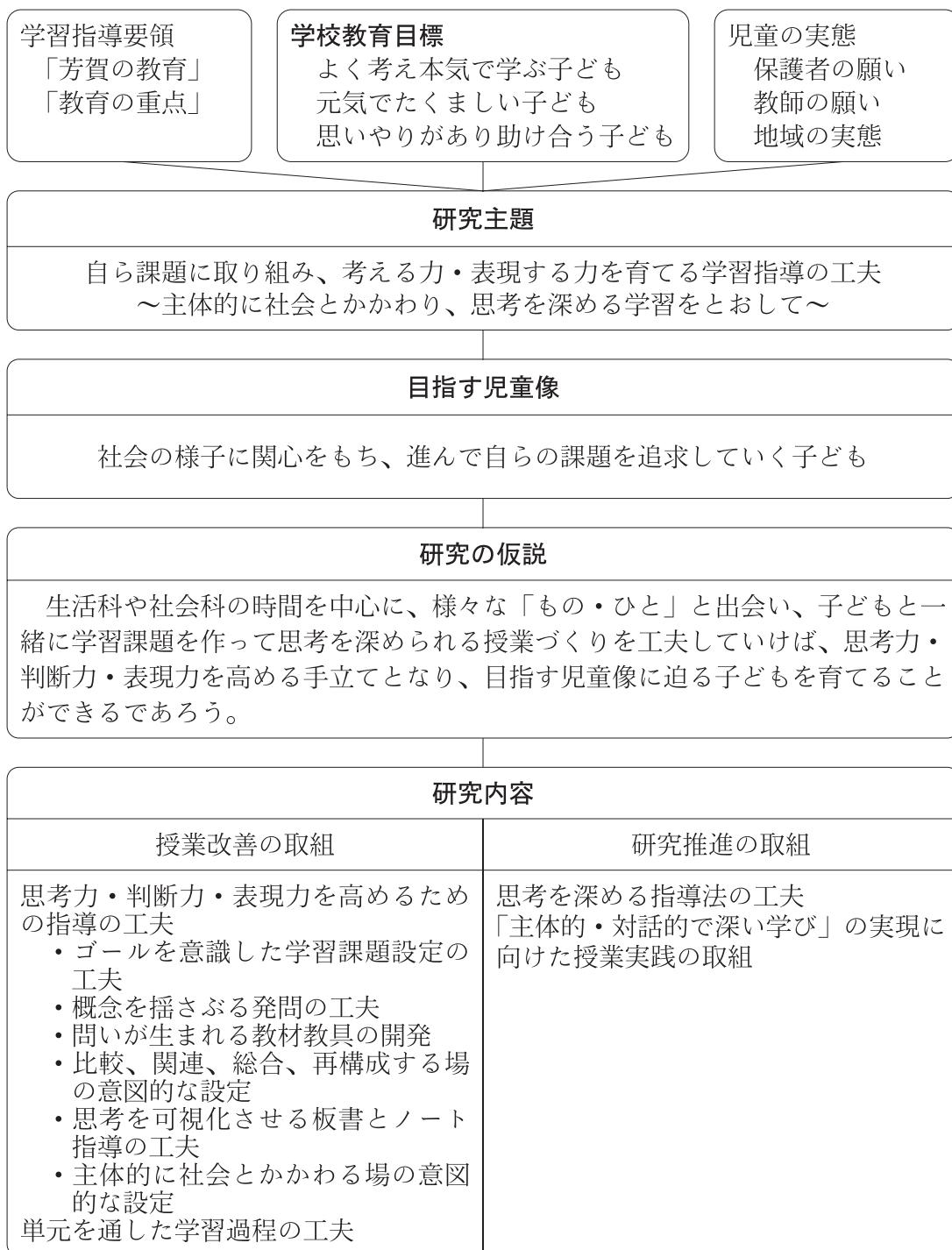
(2) 研究推進の取組

- ア 思考を深める指導法の工夫
- イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践の取組

7 研究組織



8 研究の全体構想図



9 研究の経緯

H28年度

月 日	項 目	内 容
5月6日(金)	学校課題	研究の概要について
5月11日(水)	学校課題	研究主題、研究組織、研究授業について
6月15日(水)	学校課題	研究授業について
6月16日(木)	授業研究会	3年 社会科 単元名「わたしたちのまち 益子町」 題目「学校の周りの様子」
6月22日(水)	授業研究会	6年 社会科 単元名「武士の世の中へ」 題目「頼朝が東国を治める」
6月23日(木)	授業研究会	4年 社会科 単元名「健康なくらしをささえる」 題目「安全な水をたしかにとどける仕事」
7月4日(月)	授業研究会	5年 社会科 単元名「わたしたちの生活と食料生産」 題目「くらしを支える食料生産」
7月4日(月)	授業研究会	1年 生活科 単元名「がっこようとともだち」 題目「がっこうたんけんにいこう」
7月8日(金)	授業研究会	2年 生活科 単元名「もっと行きたいな 町たんけん」 題目「町たんけんをしよう」
7月21日(木)	学校課題	学校課題、学校課題解明の手立ての確認について
7月22日(金)	学校課題	学校課題研修会 講話「自ら課題に取り組み、考える力・表現する力を育てるために」 栃木県総合教育センター副主幹 小栗 克樹 先生
8月2日(火)	学校課題	芳賀地区小教研社会部会益子地区研修会
10月6日(木)	授業研究会	6年 社会科 小単元名「世界に歩み出した日本」 題目「国際的地位向上を目指した日本」
10月27日(木)	学力向上 アドバイザー 派遣事業 授業研究会	3年 社会科 小単元名「農家の仕事」 題目「おいしいいちごづくりのひみつ」 指導助言 県教委学校教育課学力向上アドバイザー 戸田 信之 先生
10月27日(木)	授業研究会	1年 生活科 小単元名「どうしたらよろこんでもらえるかな」 題目「できることにちょうどせんしよう」
11月7日(月)	授業研究会	2年 生活科 小単元名「秋の町をたんけんしよう」 題目「秋の町をしょうかいしよう」
11月9日(水)	授業研究会	5年 社会科 小単元名「工業生産を支える」 題目「高い技術をほこる工場が集まる大田区」
11月16日(水)	学力向上 アドバイザー 派遣事業 授業研究会	4年 社会科 小単元名「益子焼の発てんにつくした人びと」 題目「濱田庄司と益子焼」 指導助言・参観 県教委学校教育課学力向上アドバイザー 戸田 信之 先生 栃木県総合教育センター副主幹 小栗 克樹 先生 芳賀教育事務所長 菅間 明夫 先生 芳賀教育事務所学校支援課副主幹 根本 美紀 先生 真岡市教育委員会学校教育課副主幹兼指導主事 日下田 宗司 先生 益子町教育委員会学校教育係長兼指導主事 植木 伸幸 先生

H29年度

月 日	項 目	内 容
5月10日(水)	学校課題	研究主題、研究組織、学校課題の概要について
5月31日(水)	学校課題	研究授業の進め方について、各部会(授業研究部、環境研究部)
6月9日(金)	授業研究会	1年 生活科 小単元名「がっこうたんけんへいこう」 題目「たんけんでみつけたことをつたえよう」 2年 生活科 小単元名「みつけた町のすてきをつたえ合おう」 題目「みつけた町のすてきをつたえ合おう」
6月14日(水)	学校課題	研究紀要について(研究推進部)
6月22日(木)	授業研究会	3年 社会科 小単元名「益子町の様子」 題目「町の様子をまとめよう」 6年 社会科 小単元名「武士の世の中へ」 題目「頼朝が東国を治める」 指導助言 益子町学校教育課指導主事 小峰 裕一 先生
6月26日(月)	授業研究会	4年 社会科 小単元名「水道の水はどこから」 題目「安全な水を確かにとどける仕事」 指導助言 栃木県総合教育センター副主幹 小栗 克樹 先生 益子町学校教育課指導主事 小峰 裕一 先生

II 研究の実際

1 授業改善への取組

(1) 思考力・判断力・表現力を高めるための指導の工夫

比較、関連、総合、再構成する場の意図的な設定

4学年 小単元「益子焼の発展につくした人々」

展開 ◎学力向上プロジェクトとの関連 ◇学校課題との関連 ○人権教育上の配慮

段階	学習活動	形態時間 (分)	教師の支援 (生かしたい児童への支援を含む)	資料	評価 (評価方法)
つかむ 見通す	1 本時の学習課題を確認して見通しをもつ。 浜田庄司のしたことは、益子焼の発展にどのようにつながったのだろう。	一斉 5	・前時までの学習を振り返り、本時は浜田庄司の業績と益子焼発展のかかわりを、年表を使って考えしていくことを確認する。 ◎姿勢や話の聞き方等、基本的な学習のきまりを守らせることにより、授業に向かう姿勢をしっかりと身に付けさせる。	年表写真 見学 メモ ノート ワークシート	
調べる	2 益子焼関連年表や調べたことを基に、浜田庄司と益子焼発展の関係を考える。	個人 7	◇年表を基に浜田庄司の業績とその後の益子焼の発展を関連付け、理由も考えさせることにより、思考を再構成させ、社会的事象に対する理解を深められるようにする。		

	<p>〈予想される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イギリスで勉強したことで、益子焼の技術が向上した。 ・皆川マスを天皇陛下に紹介したことで、益子焼が有名になった。 ・民芸運動を始めたことで、益子焼の良さが広まった。 ・濱田庄司が人間国宝になったことで、再び益子焼が注目された。 ・参考館を開いたことにより、益子焼を始める人の役に立った。 <p>3 濱田庄司と益子焼発展の関係をグループで話し合う。</p>		<p>「～したことにより、～した。なぜなら○○だからだ。」</p> <p>例 濱田庄司が人間国宝になったことで、益子焼が再び注目された。なぜなら、人間国宝は国の大切な宝だからだ。</p> <p>◎自分の考えをワークシートに書かせる時間を設定することにより、自分の考えに自信をもたせる。</p> <p>・学習意欲が低下してしまったがちな児童に対して、考えるためのヒントを与えるなどの支援をする。(努力をする児童への支援)</p> <p>◎全員に発表の機会を与えるとともに、課題解決に向けて話し合ったり深め合ったりできるようにする。</p> <p>○自分と違う意見や、良いと思った考えなどもワークシートに書かせ、自分や友達の良さを認め合いながら活動できるようにさせる。(実践力)</p>	
深める	<p>4 濱田庄司と益子焼発展の関係について全体で話し合う。</p> <p>〈キーワード〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫 : 技法・形・用途 ・努力 : イギリスで勉強をする。益子焼の研究をする。 ・思いや願い : 益子焼きの良さを伝えたい。益子焼を発展させたい。益子の産業にして町を豊かにしたい。 	グループ 10		<p>【評価規準】 【社会的な思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・濱田庄司の業績とその後の益子焼の発展を関連付けて考え、表現している。(観察・ワークシート)
		一斉 18	<p>◇全体で考えを伝え合う場を設定し、比較・関連・総合・再構成することにより、濱田庄司が益子焼発展に力を尽くしたことと、さらには濱田庄司と地域とのつながりについて考えができるようになる。</p> <p>・社会的事象を深く考え、自分の言葉で表現できる児童を意図的に指名し、濱田庄司と益子焼発展についての理解をクラス全体に広めたい。(生かしたい児童への支援)</p> <p>◎益子焼の発展と地域の関係を関連させたり、次時につながるような発問を工夫することにより、社会的思考力が深まるようになる。</p> <p>◎キーワードを使って構造的にまとめることにより、授業を振り返ったり思考の深まりを確かめたりできるようになる。</p> <p>・濱田庄司の「思いや願い」にも気付かせる問いかけをする。</p>	
まとめる	<p>(つまり) 濱田庄司は、工夫や努力を重ねて益子焼を発展させた。</p>			

	5 学習の振り返りをする。	一斉 5	<p>◎その時間の課題に対する気付きや疑問などを書かせることにより、学習内容の定着を図るとともに評価や支援につなげる。</p> <p>・次時の授業につながる問い合わせをする。</p>		[十分満足できる状況] ・濱田庄司の業績や願い・思いとその後の益子焼の発展を関連付けて考え表現している。(観察・ワークシート)
					

- ◎ 年表をもとに、濱田庄司氏の業績とその後の益子焼の発展を関連付け、理由も考えさせたことにより、思考を再構成させ、社会的事象に対する理解を深めることができた。
- ◎ グループで話し合いをした後、全体で考えを伝え合う場を設定し、比較・関連・総合・再構成することにより、児童一人ひとりが濱田庄司氏が益子焼発展に力を尽くしたことと、さらに、濱田氏と地域とのつながりについて考えることができた。

問い合わせが生まれる教材教具の開発

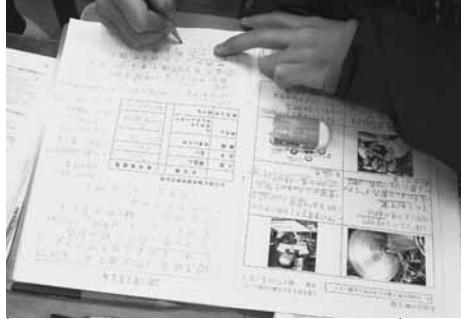
5学年 小单元「工業生産を支える」

展開

◎研究主題との関連 ○人権教育上の配慮

段階	学習活動	形態時間 (分)	教師の支援 (努力を要する児童への支援を含む)	資料	評価 (評価方法)
つかむ	<p>1 前時の学習を振り返り、本時の内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ものづくりのまち大田区の町工場がほこる技術はどのようなものだろうか。 </div>	一斉 1	◎既習の資料を提示することにより、本時の目標に沿った学習課題が設定できるようにする。		大田区のグラフ

調べる	2 映像を見て岩井さんの工場の工夫や努力を見つけ、大工場との比較をする。	一斉 9	◎一人で長年、新幹線の油圧シリンダーの研究開発をしてきた岩井さんを教材として提示し、大工場と比較することにより、町工場が大工場の工業生産を支えていることに気付かせるようにする。	油圧シリンダーの写真 岩井さんの動画 岩井さんの紹介資料 比較するカード
	3 大田区の工場の資料や動画「北島さんの話」「田中さんの話」「仲間まわし」などの資料から町工場の工夫や努力を見つける。	個人 一斉 15	◎事前の調べ学習として、「ものづくりの町大田区」について、自分で調べたことをワークシートにまとめた上で、授業に臨ませることで、主体的に調べる意欲や疑問を解決につなげる活動につなげていく活動が展開できるようとする。 ・仲間まわしができる理由の補足説明をする。	動画（北島さん、田中さん、仲間まわし） 大田区の地図 仲間探し掲示資料
深める	(予想される反応) ・長い年月をかけて得た技術 ・手作業・高い技術と品質 ・近所の仲間と協力・仲間まわし ・世界でここだけしかできない技術 ・オンリーワンの技術 ・ほこりをもっている			
	4 大田区の中小工場の工夫や努力を話し合う。	個人 グループ 一斉 15	◎大田区の町工場の工夫や努力をグループでまとめさせ、町工場の素晴らしさを確認し合い考えを深めることにより、「我が国の中小工場が日本の工業を支えていること」に気付かせるようにする。 ・そう考えた理由を簡単に考えさせ、社会的な見方や考え方を深めさせる。	ホワイトシート 掲示資料

まとめる	5 大田区の工業生産の学習のまとめをする。	個人 3	<ul style="list-style-type: none"> 調べ学習での多くの気付きをグループ内で伝えさせ、様々な視点から考えさせる。(A児) 文章を読むことが苦手な児童には、課題の意味を理解させ、視覚資料を示しながら一緒に考え、気付いたことをまとめさせていく。(B児) <p>○友達の意見を聞いて、学びを共有させるとともに、お互いの考えを尊重しながらそれを行動に移す実践的態度を育てる。(実践力)</p>	<p>[評価規準] 〈社会的事象についての知識・理解〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 大田区の中小工場の高い技術についての資料を調べ、どのようにすぐれているか理解している。(観察・ワークシート) <p>[十分満足できる状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> 大田区の工業生産の特色や様々な高い技術をもった人々が生産に携わっていること、さらに、我が国の工業生産を支えていることを理解している。(観察、ワークシート、ノート)
			<p>・みんなで調べたことを参考に、まとめる。</p> 	
	6 学習の振り返り、次時の学習課題の確認をする。	一斉 2	<ul style="list-style-type: none"> 大田区で作られた製品は、どのように運ばれるかを予想させる。 	

- 岩井さんに関する動画の教材を編集して授業に用いるなど教材開発を行ったり、デジタル教科書を活用したりすることで、興味・関心を高めることができた。
- 映像資料を効果的に用いた授業を繰り返すことで、児童がメモを執りながら主体的に学習が進められるようになった。
- シリンダーの実物を用意することで、本時の学習課題に対する興味・関心を引き付け、学習内容のイメージを膨らませることができた。
- ねらいに沿った学習問題が設定できるように様々な資料を提示し、子どもたちと一緒に作っていくことができた。
- 本時の学習内容のキーワードを子どもたちの考えの中から引き出し、それらを黒板に掲示していくことで、子どもと一緒にゴールにつながる学習のまとめができた。

(2) 単元を通した学習過程の工夫

① 「事前の評価」

単元に必要な調べ方について … 地図で調べる。インタビューする。

資料を探す。など

まとめ方について … 表・グラフ・関連図・地図など

考え方について … 経験はあるか。どんなことをしたか。知っているか。など

② 「つかむ」 … 児童が社会的事象と出会い、学習に対する見通しをもつ過程

教師の意図の元に学習課題を子どもたちと考える。手立てとして、写真や具体物など問い合わせが生まれる資料を提示する。

単元をとおした学習問題を子どもと一緒に考える。子どもの疑問や予想をもとに学習計画を立て、「何を」「どの順番で」「何を使って」など、自ら調べられる段階まで具体化させる。その際、教師側はあらかじめ「案」をもっていることが大切である。

③ 「調べる」「深める」 … 見学や調査・資料活用をとおして主体的に学習問題の追究・解決に向かう過程

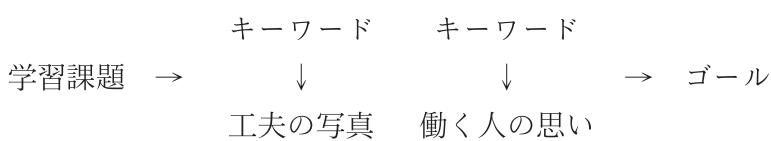
まず、自分の考えを書き、ペアやグループで互いに考えを出し合い、考えを確かめ合ったり、補充したりする。グループでの意見を黒板に提示しながら、子どもたちが互いの考えを分け（類型化）、考えを深めていく。

比較・関連・総合・再構成する学習を展開する。協働的な学びで思考力・表現力・判断力を養い、子ども同士の関わり合いを重視する。

④ 「まとめる」 … 社会的事象の特色や相互関係、意味を考える過程

子どもたちから出た考えをもとにキーワードを作り、キーワードで本時のまとめをしてゴールに迫る。「つまり～」「たとえば～」「わけは～」などを用いてまとめる。

思考過程が分かる板書になるよう工夫する。地図や年表、関係図で整理をする。人々の相互関係や原因と結果、部分と全体などの関係が見えるようにする。また、キーワードだけの図にならないように、学習した具体的な事実を結び付けるようにする。写真やグラフなどを入れ、社会的事象がイメージできるようにする。矢印（→）で結ぶ際には、それらや線の意味を説明できるようにする。



⑤ 「振り返る（考察する）」

本時の学習課題に対する振り返りを行い、学習のゴールとなるまとめに対して自分の考えをしっかりとまとめて書かせる。

指導にあたっては、学習課題に対して自分がもっていた考えがどう変わったか問い合わせることが大切である。書けるような問い合わせが大切である。自分の考え

ていたことは「本時のまとめ」と比べてどうだったか。今まで知らなかっただんなことが分かったのか。自分の考えとどこが合ってたのか、違っていたのか。これからどんな学習をしていきたいかも考えさせたい。。

「つまり～」「たとえば～」「わけは～」などの言葉を用いてまとめる学習が定着できるようにする。

⑥ 「社会とかかわる」

主として、単元全体の学習に対して、自分が社会の一員として何ができるか、何ができるかを考えさせ、学級や学年、学校全体、または家庭、地域に働きかけることを実践していく。

2 研究推進の取組

(1) 思考を深める指導法の工夫

ア 「比較」して社会的事象の特色を考える

比較とは、複数の情報を比べる思考方法である。複数の情報から共通点や違いを根拠にそれぞれの特徴や働きを考えていく。

イ 「関連」付けて社会的事象の相互の関連や意味を考える

関連付けは、複数の情報をつなげる思考方法である。様々な組み合わせでつなげることで、一つでは見えなかった働きや役割などが見えてくるようになる。複数の情報を関連付けることで、社会的事象の相互の関係や意味を考えていく。

ウ 「総合」して社会的事象の特色や意味を考える

総合は、複数の情報をまとめる思考方法である。具体的な事実や情報を根拠にして、抽象化、概念化して社会的事象の特色や意味を考えていく。

エ 「再構成」

再構成は、学習したことを組み直す思考方法である。学習したことを根拠にして、自分の考えをもつ場面、社会において大切にすることや課題解決のためにできることを社会の一員として判断する。そのため、視野を広げる学習問題や発問や社会的事象の意味の本質に迫るような発問、未来に向けた課題解決への自分のかかわりかたを考えるような発問を投げかけることにより、社会的事象を多面的に捉えていく。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践の取組

社会的な見方・考え方をふまえると、次のように考えられる。

「主体的な学び」

社会的事象に興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる学び

「対話的な学び」

問い合わせを解決するために子ども同士や先生、社会の様々な人々と対話をし、自らの考えを広げ深める学び

「深い学び」

既に学んでいる知識や新たな情報を活用して、社会的な見方・考え方を働かせながら社会的事象に対する問い合わせを見出し、自分の考えを形成して表現する学び

授業にあたり、「主体的な学び」のもととなる興味や関心は、解決したい問い合わせなければならない、解決したい問い合わせがあり、それが一人では難しいとなれば、おのずと「対話的な学び」が生まれると考えられる。さらに、「深い学び」がさらなる問い合わせを見出し、解決に向けての学びが続いている。

学習を進める中で体験や経験したことは、長く記憶している。その時の状況や抱いた感情などと結びつけて記憶されているため、似たような場面に遭遇すると記憶が引き出されてくるものである。今後大人になってからより深い学びの基礎となる「深い学び」を社会科授業で育んでいくことが大切である。単に「汎用的に使うことのできる概念等にかかる知識を獲得」させればよいというのではなく、どのように学習を展開していくか子どもたちの記憶に残っていくのかを意識しながら授業を構成し実践していくことが大切であると考える。

III 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- ・昨年度より研究を積み上げ、およそ半年間で全クラスの授業研究会を行ってきた。それぞれの授業についての授業研究会により、生活科と社会科について話し合う場が増え、課題解明の手立てが明確になるなど、教師の共通理解を図りながら研究を深めることができた。
- ・アンケート調査を実施し、児童の実態や変容などを分析することで、本年度、課題の改善策を具体的に検討して研究を進めることができた。
- ・小教研社会部会の授業研究や学力向上アドバイザーの訪問、益子町社会部会の先生方との授業研究会など、外部講師の指導も依頼し実施したこと、授業や本校の課題研究をさらに深めることができた。
- ・社会科や生活科の授業の流れや指導案について、統一した考え方で授業改善に取り組み、指導の一体化を図ることができた。
- ・グループ学習の取組やノート指導の工夫など、他教科の学習でも研究を生かした指導ができるようになった。
- ・思考力・判断力・表現力を高める授業の実践を意識しながら課題解明に向けた研究を推進したことで、学習のまとめや振り返りの場面で児童の学びの質が向上した。

2 今後の課題

- ・授業の流れを確認し、単元の導入での出合わせ方、「つかむ」「調べる」「深める」「まとめる」「振り返り」の段階で大切なポイントについて共通理解が図れるよう提案した。さらに思考を深める活動に時間をかけて指導を工夫できるようにしていきたい。
- ・単元の学習問題や単位時間の学習課題を子どもと一緒に作り上げていく際、事前に単元全体を考えて出合わせ方や問い合わせが生まれる資料を提示し、教師の意図するものが展開していくようにしていきたい。
- ・グループ学習をするにあたって、「何のために・何をねらって・伝え合うのか深め合うのかまとめるのか」「何について話し合うか実態に応じて具体的に指示する」「どんな方法で」「まとめ方は」など、事前に指導者側が明確な考えをもって取り組ませ、活動を繰り返していきたい。
- ・生活科の指導案に「社会科のつながり」を記載し、生活科と社会科のつながりを意識した授業が展開できるようにしていきたい。
- ・学校課題解明の手立てを一つひとつ再確認し、授業実践に向けた取組を全職員で共通理解のもと進めていき、考える力・表現する力を育てていきたい。
- ・11月21日(木)の研究大会に向けて、成果を学校全体で共有し、指導技術を身に付け授業力や専門性を高めて成功させたい。